

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
107	川崎市立王禅寺中央小学校	小堤 紀子

学校教育目標	今年度の重点目標
○自ら進んで学ぶ子 自ら学び、自ら考え、自ら動き出せる子 ○思いやりのある子 人間性にあふれ、心豊かな優しい子 ○たくましい子 健康で明るく、元気な子	○特別活動を校内研究とし「みんなでほっと王中小」のスローガンのもと、一人一人の子どものよさを認め、生かし、伸ばし、どんな時もあきらめない子どもの育成を目指す。 ○地域と共に信頼され魅力ある学校づくりの推進。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 一人一人の子どもの理解	○担任が子ども一人一人の特性をしっかりと見るように心がけながら指導・支援に当たる。	担任が子どもたちの様子について把握し、心配なことは支援教育Coが相談にのり、外部相談員の支援や助言につなげていった。	効果測定を有効に活用し、子ども理解や改善に生かしていく。基本的な授業規律を整えていく必要がある。
2 個に応じたきめ細やかな教育相談の充実	○支援教育Coが中心となり、きめ細やかな教育相談ができる体制をつくる。適宜ケース会議を開き、共通認識を持って取組。「ほっとポスト」等を活用して子どもの思いや願いを大切にす。	数名の不登校児童に対して、担任や支援教育Coが一緒に対応することで保護者からの安心感も増した。90%以上の児童が先生は相談に乗ってくると回答している。	子どもの願いを受け止められるよう、担任が子どもからの信頼を寄せられるような体制作りを強化し、教師側の意識を高くもてるように、折に触れ、研修を設ける。
3 専科制導入における働き方改革の推進	○専科制を導入することで、子どもや教員にゆとりが生まれる。また、高学年においては、中学校への進学がスムーズにいくように考える。	高学年に、外国語、音楽に専科を置いた。児童からは授業がわかりやすいとの評価を得ている。中学校へ向けてスムーズに学習に取り組める点でも成果があり、今後も拡大していきたい。	専科に充てる人員を確保することができ、担任の時間の余裕は生まれ、働き方改革にもつながる。人員の確保がなければ不可能である。
4 GIGAスクール構想による児童指導の充実	○GIGA端末を活用した学習に課題のある子どもへの支援の充実を図る。	教員も子どももGIGA端末を学習ツールとして、活用する機会が飛躍的に伸びた。学習形態の変容に教員も子どもも抵抗感なく活用することができた。	子どもや教職員にとってGIGA端末を活用できるスキルは大いに身についた。学習への意欲が増したという、子どもの声が励みとなり、活用の深まりを感じた。
5 地域に開かれた豊かな教育活動の推進と信頼される学校づくり	○ゲストティーチャーや寺子屋の学習を通して、子どもたちの知的好奇心を育て、地域人材を活用した工夫ある授業づくりを推進する。 ○学校と家庭・地域との連携を図り地域に開かれた豊かな教育活動を推進する。	地域在住の書道家や箏奏者から直接指導していただいたことで、日本文化への造詣が深まった。稲作の学習では田植えから収穫に至るまでの成長を見守りながら作物を育てることを通して、食の大切さについて学ぶことができた。寺子屋に通う子どもたちからは、自己のペースで学習できることの喜びの声が聞かれた。	地域性を大切にしながら、日本文化への指導を深めていく。寺子屋の学習に充実感を持っている児童が多く、今後も子どもの学習意欲や現状を考慮して寺子屋のスタッフと協議していきたい。
6 特別活動を軸とした「みんなでほっと王中小」の実現	○学級会を通して、自分の意見を発表し友達との合意形成ができるようになる。 ○たて割り活動を通して、上級生が学校のリーダーとして活躍できるよう、設定する。	児童からの「たて割り活動では他の学年と仲良くできていると思いますか」の問いに関して90%を超える児童が満足していると評価している。話し合い活動に関しても同様である。そう思わない児童が進んで参加できるよう、今後も検討していきたい。	自分の意見を表出できない児童に対しては、GIGA端を有効活用し、人前では発表できなくても意思を表すことができる手立てを考えていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
保護者からの学校アンケートでは、「子どもが毎日、元気に通学できることに大変感謝している」「学校は教育方針や取組について、わかりやすく伝えている」等、学校運営に関して、85%以上の高い評価をいただいている。「アンケートはママモルメで配信となり、回答しやすかった」との意見が多く、80%近くから回答を得ることができた。保護者から要望が高い学校からの配布物も、本格的な電子化へ切り替えていけるよう考えている。ネットモラルに関しては児童が考えている以上に保護者の不安感が大きい。学習に関しては、授業がわからないと学校への登校が鈍る傾向にある。また、児童にとって相談できる大人がいることが安心へと繋がる。児童のよさを見つけ、得意なことを伸ばしていける教師集団を望む。今後も、学校教育推進会議や学校運営協議会、PTA運営委員会を通して、学校経営を理解してもらえるよう、学校からの呼びかけが必須である。	昨年度からの重点目標として「みんなでほっと王中小」をスローガンに掲げ特別活動を軸に学校経営を行った。児童の学校評価アンケートにおいて、「自分の意見を発表することができる」「学級会が楽しい」と回答する児童が85%を超えたことでも成果が表れていると実感する。今年度は特にたて割り活動への評価が高かった。しかし、心に何らかの心配を抱えている子どもたちもいることは否めない。教育相談を充実させることで子どもや保護者からの信頼に結びつくような体制の構築が必要である。児童一人一人のニーズに合わせて、児童の学力面や生活面の安定が図れるようにしていくためには人材の確保が必要と考える。本校では、支援教育Coの後追い非常勤2人とし、人材の確保に努めている。学生ボランティア、NPOの登録者による授業補助や取り出し学習等、あらゆる面でマンパワーをお願いしている。学習面ではGIGA端末の活用が一定の成果を上げてきていると実感する。ICTを活用することに関しては日常化してきた。教職員においては、それぞれの個性を生かし、得意な分野で活躍し協働的な取組ができたことで、風通しの良い活気ある学校が実現している点は本校の強みである。